

2025年2月1日

中東関係者各位

九門康之

## 「中東なう」2025年2月

### 1. 2025年の中東（続き）～様子を見る中東諸国

米国のトランプ政権が始動した。中東ではシリアのアサド政権崩壊、レバノンでサウジアラビア・米国に支援されたアウン大統領が就任、イスラエル・ハマス停戦合意など大きな動きが続いている。サウジアラビア、トルコ、エジプト、イランなど主要国は変化を注意深く観察しており、今後方向性が見えてくるだろう。

レバノンのアウン大統領就任は中東全般で歓迎された。サウジアラビアはアウン大統領がヒズボラなどシーア派勢力のコントロールすること期待している。レバノンではイスラエルとの戦闘が下火になったことからエジプトなどアラブ諸国がバイルートへの航空便を再開した。イランもアウン大統領就任を歓迎したが儀礼的なものともとれる。

シリアの新政権への対応はまちまちだ。トルコは新政権の中心である「タハリール・アル・シャーム機構」(HTS)を支援してきたことからシリア新政権を歓迎した。近い将来、トルコ在住のシリア難民を帰還させ、貿易関係を拡大することで、トルコ製品の輸出先として育成したいとの思惑がうかがえる。サウジアラビアの対応は異なる。シリアへの支援物資空輸を開始しておりシリア国民への支援は明確であるが、政権そのものとはやや距離を置いている気配がある。今後、サウジアラビアの影響が強いアラブ連盟がシリア新政権を認めるかどうかポイントとなろう<sup>1</sup>。シリア政権はEUに対して制裁解除を訴えている。また、シリアに軍事拠点をもつロシアがシリア訪問団を派遣した。今後の展開に注目したい。

### 2. 資金調達準備を進めるサウジアラビア

サウジアラビアが25億ドルのイスラーム金融資金調達枠を設定した。繰り返し利用できる枠組みで資金は財政資金に使われる。同国のソブリン・ウェルス・ファンド(SWF)であるパブリック・インベストメント・ファンド(PIF)も同様の資金調達枠70億ドルを設定した。これらの資金調達枠に共通する点は、資金ニーズに対し迅速に対応できること及び返済後も調達枠を繰り返し使用できることである。これまでまとまった資金は、都度銀行融資団を結成して調達してきた。

同国財政は、若干の赤字ではあるものの好調に推移してきた。資金調達枠の準備は、機動的な攻めの資金繰りと同時に、状況が急変し資金が必要になった場合への備えともいえる。

---

<sup>1</sup> シリアはアサド政権時代の2023年5月アラブ連盟に復帰していた。しかし、アラブ連盟は、政権崩壊に伴う新政府をシリアの代表と認めていないようである。2025年1月19日付のトルコ系新聞は、シリア外務大臣の「アラブ連盟復帰を希望する」というコメントを報道している。

原油価格はゆるやかな下落傾向にあり、財政資金ニーズが高まる可能性がある。

サウジアラビアの他、クウェート、バハレーンなどでも資金調達拡大の動きがある。

### 3. その他のニュース

●エジプト、19世紀後半のカイロの街並みを復活へ●シリア、新政権が中東湾岸諸国訪問  
●中東産油国、エネルギー上流への投資を拡大●イラン・サウジアラビア、両国法務大臣が  
会談●パレスチナ、当局がアルジャジーラ事務所を閉鎖命令●シリア、ダマスカス博物館再  
開●トルコ、シリア人の往来を緩和●UAE、観測衛星を米国から打ち上げ●イラン、米国と  
の対話姿勢示す●エジプト、建築ブーム●トルコ、シリア・アレッポ領事館を再開●ドバイ、  
Dubai Islamic Bank がトルコのデジタル銀行の株式を取得●サウジアラビア、WTI先物を購  
入●イラク、米軍は当面イラクに留まる見通し●イラン、大型ドローンを開発●バハレーン、  
30億ドルの国債を発行●クウェート、今後5年間で650億ドル借入を計画●ドバイ、高速  
道路夜間無料に●カタール首長、シリアを訪問●

以 上